

2025年度（令和7年度）学校評価自己評価表

神辺東中学校区	校番 76	福山市立御野小学校
最終更新日		2025年(令和7年) 4月 1 日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する 資質・能力	課題解決力・コミュニケーション力
・各校とも、知・徳・体に係る工夫した取組がなされている。児童・生徒のつますきへのアプローチや心の教育の充実、幼保小中連携教育を今後とも進めてほしい。 ・研究方法等の工夫が見られる。児童・生徒、教職員、保護者・地域が、ともに挑戦できる場を大切に、やりがいや充実感が一層向上することを期待する。	・小集団での人間関係づくりはできるが、大きい集団における関わりには課題が見られる。 ・学習に向かう意欲や、努力する態度が育ってきた。基礎学力定着に向け、さらに評価の精度を上げるとともに、活用場面の充実を図る必要がある。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	自己を認識し、「なりたい自分」を目指し、自分の人生を選択し、自分らしく表現することができる。 【学びづくり部】校区研究テーマを踏まえ、課題発見・解決型の学びづくりを行う。 【生徒指導部】小中及び小小連携・交流活動の実施、生徒指導規程の見直しを行う。 児童・生徒の実態交流及び連携を行い、進路指導について研修する。 【健康・体力づくり部】児童・生徒が自らよりよい生活習慣づくりをするための取組を行う。 ※よりよい学習習慣や生活習慣づくりに向けた系統的な指標「校区スタンダード」の作成

III 自 校

ミッション		育成する 資質・能力	課題解決力（思考力・判断力・表現力）	コミュニケーション力（学びに向かう力）
ふるさと御野に愛着と誇りを持ち、未来を拓く意欲をもった人材を育成する。 ○教育活動を充実させ、児童に学力をつける。 ○多様性を理解し、他者と協働して活動する力を付ける。 ○地域と進んで関わり、地域から学び、地域のために役立ちたいという思いを育てる。		めざす 子ども 像	→①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現→⑤振り返る→	①伝え合う ②認め合い協働する
学校教育目標			低 学 年 中 学 年 高 学 年	① 相手の考えをじっくり聞いたり、自分の考えをはっきり伝えたりする。 ② 協力して活動しようとする。 ① 相手の考えを聞いて共感したり、自分の考えを伝えたりしながら合意形成を図ろうとする。 ② 自他の良さを生かしながら協力して活動しようとする。 ① 相手の立場や思いを理解し、意見を出し合いながら、合意形成を図ろうとする。 ② 自他の良さを生かしながら協働して活動しようとする。
自ら学び、人間性豊かで、たくましく生きる子どもの育成				
現 状				
<児童生徒> ○学習への意欲やねばり強く努力する態度が育ってきたが、知識の活用には、まだ課題がある。既習の知識や技能を活用し自ら考えたり、工夫して表現したりする場を効果的に設定し、学習過程を充実させる必要がある。 ○児童は、素直で優しく、真面目に行動しようとしている。一方、他者との関わりの中で、自分の思いが言えなかったり、相手の思いを理解できなかったりする場面も見られる。さらに、協力して活動する良さを実感するよう取り組む必要がある。 <授業> ○生活科と総合的な学習の時間を核にした総合単元構想を作成したが、学習課題の見直しや、学習過程の充実を図る必要がある。 ○単元構想シートを活用し、各教科等の「見方・考え方」をはたらかせて納得解を生む授業づくりに努めた。今後、知識を活用する場を積極的に設け、使える知識・技能の定着を図る必要がある。 ○児童が学習に達成感を感じ、意欲を高めつつある。育成すべき力を明確に学びの良さを実感するとともに、学習したことが、次の学習や家庭学習等につながるようにする。				
		テーマ	他者と協働し、課題を主体的に解決する児童の育成 — 地域とかかわり、探究的な見方・考え方をはたらかせる単元づくりを通して —	
		研究 内容等	○地域素材を活用した探究的な単元の構想 ○見方・考え方をはたらかせる教師のファシリテーション（課題との出会わせ方 発問 つますきや困難への支援、個別・協働的な学びの場）の工夫 ○育成する資質・能力を明確にした振り返り（理解 関連付け・統合 自己の成長）の充実	
		めざす授業の姿	◇児童が知的好奇心を持ち、意欲的に学びに向かう授業 ◇児童が、自らの経験や既習の知識・技能を活用して対象と関わり、体験、調査、対話活動等を通して課題を解決しようとする。 ◇児童が学習を振り返り、達成感や充実感を感じると共に、学習を次へとつなぐ授業	

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営 目標	重 点	分 類	短期経営 目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	力以 評価	達成 評価	改善 方策	□指標に係る取組状況 ○短期・中期経営 目標の達成状況	力以 評価	達成 評価	総合 評価	改善 方策
1	【自ら学ぶ】 主体的・協働的に 働き続け、児童の育 成	★	新規	他者と協働し、課題を 解決する授業づくり	○地域素材を活用した 単元づくり及び 課題発見・解決学 習の実施 ・地域学習単元構想 図作成・交流 ○授業Weekに国語 部会、算数部会の 授業提案、授業交 流実施 (6月、11月) ○学力補充 ・みのっ子タイムにお ける基礎・基本学習 ・家庭学習の習慣 (宿題・予習・復習)	○学習に係る児童の意識調査 肯定的評価：80%以上 ・解決しようとする課題につ いて、「なぜだろう」、 「やってみたい」と思う ・情報を、比べたり、仲間 分けしたり、関係を見付 けたりして、何が分かる のかを考えている ・自分の考えとその理由を明 らかにして、相手に分かり やすく伝えるように発表を 工夫している ○授業観察シートを活用 した評価 肯定的評価：80%以上 ○標準学力調査等の実施 ・7、12月に実施し結果が向上									
3	【人間性豊か】 思いを伝え合い、互 いを理解し合って、他 者も大切にする児童 の育成	★	継続	児童が多様な他者 と関わり、認められ る喜びを感じる向上	○児童が企画・運営・ 改善する行事や委 員会活動等の実施 ○児童がお互いの考 えを認め合うクラ ス会議の実施	○児童の意識調査 肯定的評価 80%以上 ・自分とちがう意見について考 えるのは楽しい ・友だちや周りの人の考えを大 切にして、協力しながら課題 の解決に取り組んでいる ・自分や周りの人の良さに気付 いている									
1	【たくましい】 自らの健康 や体力に関 心を持ち、 よりよい生 活を築こう とする児童 の育成	★	新規	基本的な生活 習慣の定着と運動への意 欲の向上	○児童が自分の生活を 振り返り、よりよい 生活習慣づくりをす るチャレンジ週間の 実施 ○児童が運動への関心 を高め、自分の目標を 目指し取り組む活動 の実施 ・運動遊びの紹介 ・体育授業研修実施	○児童の生活時間調査 ・学習、読書時間 ・スマートフォン、ゲーム時間 ・運動時間 ○児童の意識調査 肯定的評価85%以上 ・生活習慣を意識して生活し ている ○体力テストの課題とな る運動の再テスト ・課題となった運動の結果向上									

1	活刀あひる学校 信頼され 学校の推 進	新規	保護者・学 校の連携 を強め、 共に育む	○保護者・地域との 効果的な連携 ・保護者・地域と共 に行う学習活動 ・多様な情報発信	○保護者・地域の意識調査・ 肯定的評価 85%以上 ・学校の教育活動の様子がよく 分かる。 ・子どもたちの取組を応援して いる。									
				○タイムマネジメン トと学びに向かう 時間の確保	○教職員の勤務時間外在校 時間45時間/月以内 ○教職員の意識調査 肯定的評価 85%以上 ・仕事にやりがいを感じる									

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。